

学校名（人吉市立第一中学校）

自己選択・自己決定・自己省察を促す主体的な授業づくり



【ねらい・具体的な取組】

生徒の主体性を最も身に付けさせたい資質・能力として設定し、授業においては、「自己選択・自己決定・自己省察」を促す授業づくりに取り組んでいる。

例えば、学習課題を選ぶ、一緒に活動する相手を選ぶ、話し合う相手を選ぶ、解決方法を選ぶなどの活動を通して、生徒自身が主体的に自分の学びを調整しながら進んで行く授業のあり方を模索している。

国語科では、説明文の構成について、筆者の主張が適切に伝わる文章になっているかを評価の視点を選び、自分の意見を叙述を示しながら説明し合う学習を行った。その中で同じ文章を読んでも、事例の文量が適切と考える生徒とそうでない生徒もあり、お互いの意見を話す相手を自ら選びながら議論し合う姿が見られた。

【期待される成果】

生徒が自らの学びを選択、決定することで自己の学びに責任をもち、能動的に自らを高め続ける学びにつなげていける態度を育成していけると考えている。

学校名（人吉市立第二中学校）

ICTを活用した「授業改善」と「家庭学習の個別最適化」



【ICTを活用した協働的な学び】



【ICTを活用した学習の個別最適化】

【ねらい・具体的な取組】

「生徒の主体性の育成を通じた学力向上」をねらいとして、「熊本の学び」を基盤にした「授業改善」と「家庭学習の個別最適化」について、ICT活用を改善の原動力として取り組んでいる。

「授業改善」については、ICTを活用した協働的な学びの充実に取り組んでいる。生徒個人の意見がすぐに共有できる点は、デジタルの特性を生かしたICTならではの実践例であり、多くの教科での実践が進んでいる。

また、「家庭学習の個別最適化」については、従来の自学ノートでの実践に加えて、タブレットPCを用いた学習に取り組んでいる。ICTの活用により学習ログを蓄積し、ビッグデータやAI活用による個別最適な学びが深まっている。単元テストでの課題克服を家庭学習につなげるなど、授業と家庭学習の往還が円滑になっている。

【期待される成果】

自己調整・内省しながら主体的な学習者となり、求めて学ぶ生徒が育成されることが期待される。

学校名（人吉市立第三中学校）

Lプロジェクト(定期テストへの取組)

[テスト課題]

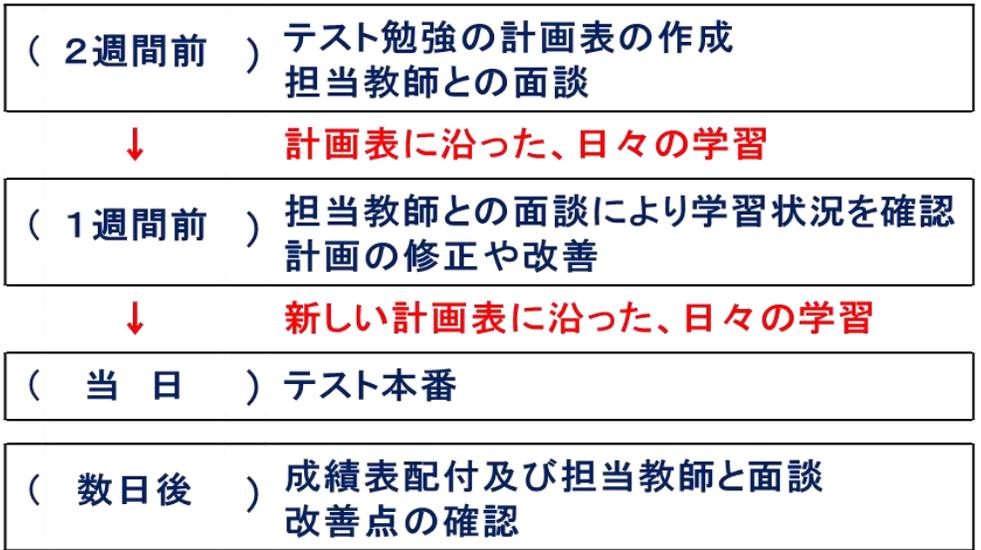
国語	ワーク	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34								
社会	歴史自主学习	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67			
数学	カード(6/3提出)	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34						
	数友(6/3提出)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40				
	数友プリント(6/7提出)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40				
	プリント集(6/7提出)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
理科	ノート	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
英語	ワーク	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40				

できたら□にチェックをする 自己評価 A:できた B:半分以上できた C:できなかった

日時	実際の学習時間	学習計画	自己評価
26(木)	2時間30分	(社会)【45分】 □ 自主学习 36~38 5/1 (英語)【30分】 □ 7-7 14~19 (国語)【20分】 □ 7-7 4~5, 15	A・B・C
27(金)	2時間00分	(数学)【1分】 □ カード 2~8 数友 14~19 (理科)【1分】 □ 1-1 2, 4, 6 (社会)【1分】 □ 自主学习 39~45	A・B・C
28(土)	3時間50分	(社会)【1分】 □ 自主学习 16~17 (英語)【1分】 □ 7-7 20~24 (国語)【1分】 □ 7-7 16~25	A・B・C
29(日)	4時間50分	(数学)【1分】 □ カード 9~17 数友 20~22 1/2 (理科)【1分】 □ 1-1 10, 14, 16 (社会)【1分】 □ 自主学习 50~55	A・B・C

計画表の例

- 【ねらい】
主体的に学ぶ生徒の育成
- 【具体的な取組】
- 定期テストに向けて計画表を作成し、PDCAサイクルを活用し、学習に取り組む。
 - 個に応じた学びのあり方について生徒一人一人と個人面談を行う。
- * 1学期定期テストの取組例



面談の様子



Lプロジェクト強化期間
あなたは今勉強に夢中かい？



【期待される成果】
定期テストに向けてLプロジェクトの取組を行うことで、見通す力、挑戦する力、関わる力、主体性を育む。

学校名（錦町立錦中学校）

「わかった」「できた」を実感するための基礎・基本の定着
～学校での学びと家庭学習との接続～



【ねらい・具体的な取組】

学校と家庭での学びがつながるように、学びてノート(自主学習ノート)を活用している。授業者は、授業内に次時につながるような基礎的・基本的な内容と取り組む方法について示し、生徒が家庭学習として取り組む。

翌日に担任を中心に学年部でノートチェックを行い、充実した取組ができている生徒を紹介し掲示する。内容をまとめるだけでなく、自己テストをするようにアドバイスを行う。授業者は、翌日の授業で生徒の定着を図るために小テスト等を実施する。

【期待される成果】

個に応じた内容の家庭学習に取り組むためのアドバイスを行うこともでき、生徒は自分で取り組んだことへの達成感を次の授業で味わうことができる。この経験を積み重ねることで、基礎的・基本的な事項の定着と、授業と家庭学習の接続を図ることができる。

学校名（あさぎり町立あさぎり中学校）

主体的に学ぶ生徒の育成



【ねらい・具体的な取組】

生徒の学力向上をねらいとして、授業改善やICTの活用に取り組んでいる。

①授業改善

- ・個人思考の時間の確保
- ・個人→ペア→グループ→全体
- ・段階的な思考の整理
- ・話し合い活動・発表の仕方の共通実践

②ICT活用

- ・授業での写真、映像での記録
- ・ノート提出機能
- ・コメント機能（生徒間通信）
- ・意見の交流を通しての協働的な学び

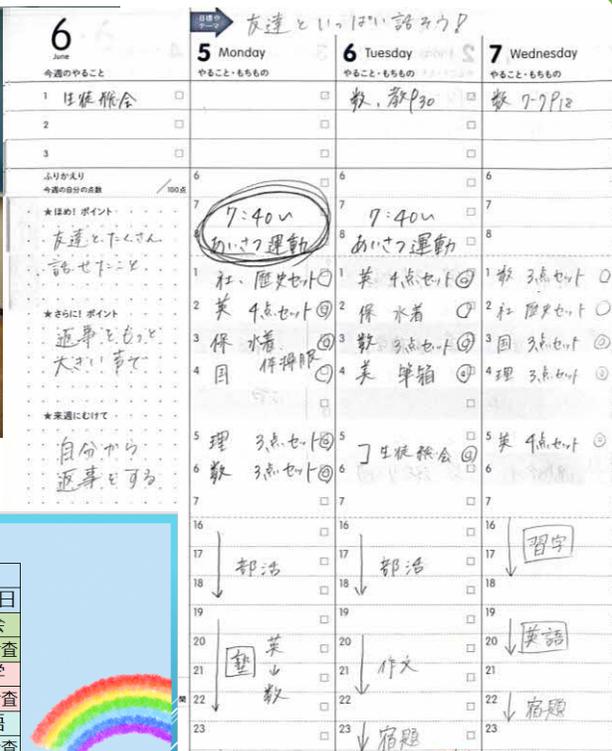
ICT機器の効果的な活用を通して、教師主導の授業から生徒の主体的な学習を目指している。

【期待される成果】

- ・自分の考えを明確に表現する力の育成
- ・次の学びのための記録する力や振り返りの力の育成
- ・書く活動や生徒の考えの共有の時間の短縮
- ・視覚的に伝え合うことでの思考・理解の深まり
- ・生徒の意欲的な学びの実現
- ・主体的な学びに向けた授業改善

学校名（多良木町立多良木中学校）

スケジュール帳を活用した学習計画づくり



単元テストの予定表

テスト等	火 6月27日	水 6月28日	木 6月29日	金 6月30日	土 7月1日	日 7月2日	月 7月3日
1年生		理科		社会		社会	社会
2年生		理科					数学
3年生			数学				国語
1年生	7月4日 保体	7月5日 英語	7月6日 数学	7月7日 音楽	7月8日	7月9日	7月10日 国語
	定期考査	定期考査	定期考査	定期考査			定期考査
	音楽	保体	理科	国語			社会
	定期考査	定期考査	定期考査	定期考査			定期考査
	理科	保体	英語	社会			数学
	定期考査	定期考査	定期考査	定期考査			定期考査



【ねらい・具体的な取組】

生徒が自ら学習に取り組むことができるようになることをねらいとした取組である。直近2週間分の各教科の単元テスト等の予定をまとめ、生徒と共有している。毎週朝の時間を活用して、学習委員会の生徒がテストの予定を読み上げ、スケジュール手帳に記入する。その後、テストに向けて、家庭学習の計画を班ごとに立てる。また、毎日の帰りの会では、その日の家庭学習の予定を立てる時間を設けている。

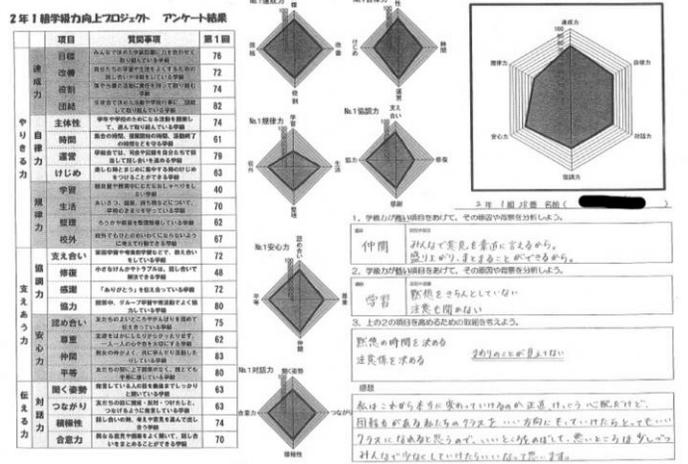
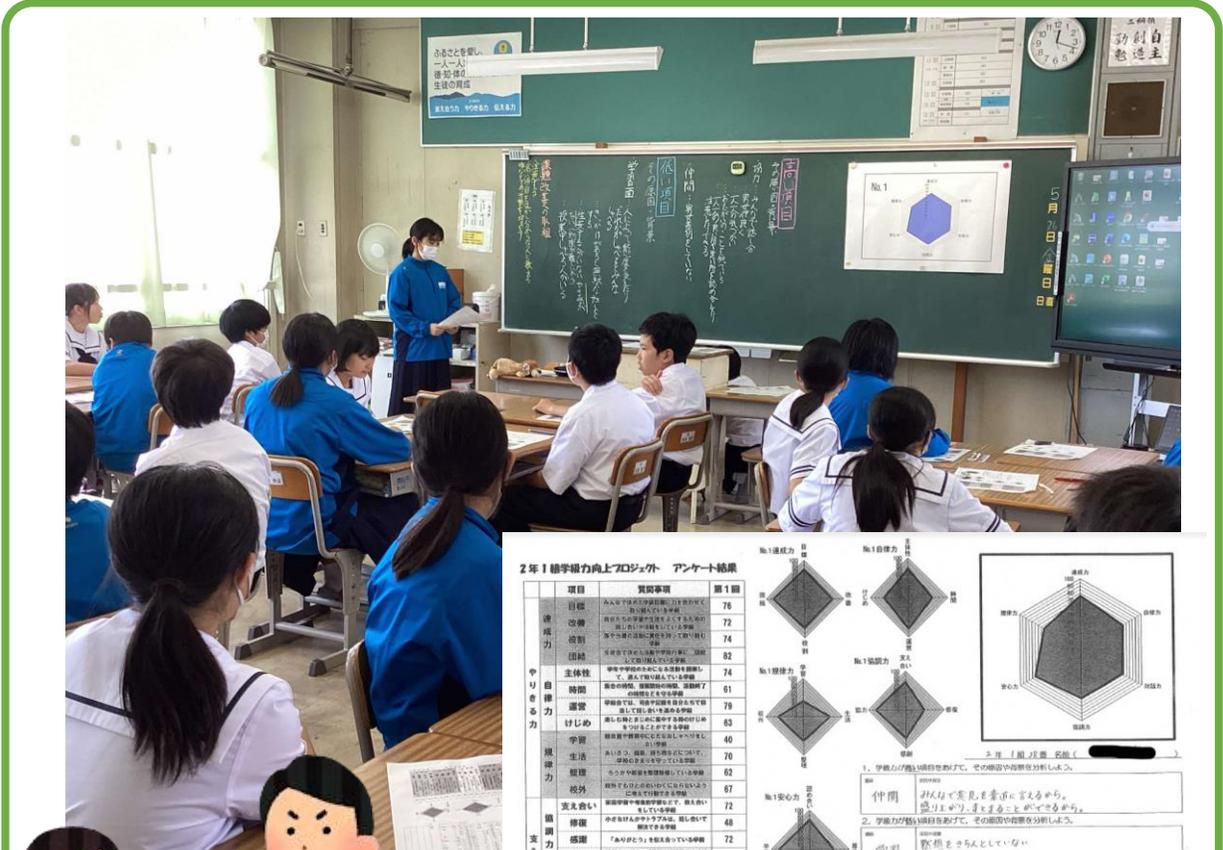
【期待される成果】

生徒は先を見通して、テストに向けた準備をした上で本番に臨むことができる。

生徒は定期テスト前だけではなく、目的を意識して継続的に学習に取り組むことができる。

学校名（湯前町立湯前中学校）

学級力向上プロジェクト



【ねらい・具体的な取組】

学級力向上プロジェクトとは、生徒それぞれにアンケートをとり、それを元にレーダーチャートを作成、作成したチャートをクラスで見ながら、長所や改善点について話し合う取組のことである。改善点については、クラスごとに対策を考えて、その実践と振り返りを行う。この取組を通して、生徒主体で授業態度や生活規律を高めていく態度の育成と実践力の向上を期待している。

【期待される成果】

年間を通して、RPDCAサイクルとしてこの流れを繰り返すなかで、クラスの実態に応じた実践を行なっていく。そのような取組を通して、授業態度などの学習環境を整え、学力向上に繋げていくことが期待できる。

学校名（相良村立相良中学校）

授業における対話活動の充実を図ることで
発表力の向上につなげる取組

対話の仕方（社会）



1 1人で考える

ペアで考える

2 班で考える

全員で考える

修正する

3 ひとつにまとめる

4 発表する

追加意見・感想



【ねらい・具体的な取組】

昨年度ペア学習やグループ学習の機会を増やす取組を行ったことにより、ペア学習やグループ学習において生徒が主体的に話し合い、考えを表現し、深める活動が活発になった。一方で全体での発表になると発表者の固定化がみられ、発表の機会を逃している生徒が多かった。

そこで、授業での共通実践事項の一つとして対話活動の充実（教材、ペア、グループ、全体）を設定し、一人一人の発表の機会を設定するとともに、発表者に対する「返し（指摘やアドバイス、同意や質問等）」ができるような支持的風土づくりを行っている。

【期待される成果】

- 授業において、生徒一人一人が課題に対して自分の考えを持つことができる。
- 主体的に学びに向かうことができる。
- 発表の機会が増え、発表力の向上や深い学びにつながる。

学校名（五木村立五木中学校）

校内研修：NIE研究部の取組



【ねらい】

情報を主体的に探し出し、多様な見方・考え方にふれ、多様な価値観を理解する力と自分の考えを伝える力を身に付けさせる。

【具体的な取組】

「NIE」研究部の取組

仮説：NIEを教科学習や家庭につなげ、日常的に新聞に触れさせるならば、情報活用能力が向上し、多面的多角的な考察が身に付き、コミュニケーション能力が身に付くであろう。

- 毎週火曜日の朝自習にて新聞記事を読み、感想を書いたり、記事にタイトルを付けたり、感想を互いに述べ合ったりする。
- 毎週水曜日の放課後に25分の時間（イツキングタイム）を確保し、生徒が休日を利用して探していた「気になる新聞記事」について、互いに発表し合い考えを共有する場を作る。

（記事トーク）

【期待される成果】

- ・読解力の向上
- ・情報活用能力の向上
- ・多様な考え方の定着
- ・コミュニケーション能力の向上

学校名（山江村立山江中学校）

縦割り学びあい学習の充実

～自分の考えをもち、自分を表現できる生徒の育成を目指して～

2年生から1年生へ

3年生から2年生へ

面接練習

- 主な質問内容
- ・中学校生活で頑張ったこと
 - ・将来の夢について
 - ・長所を具体的に、またどう生かしたいか
 - ・中学3年生で頑張りたいこと
 - ・高校で頑張りたいこと



【ねらい・具体的な取組】

山江中では、3年前から、学期に1回程度、3年生が2年生に、2年生が1年生に、各教科の学習内容を教えている。また、普段から、スケジュール手帳の書き方やテスト勉強の計画の立て方等、生活面での課題解決も1～3年生の縦割り班で取り組んでいる。昨年度の3月には、受験を終えた3年生から2年生に向けて、面接や受験勉強の経験を伝える座談会を行った。

【期待される成果】

上級生にとっては、「教えないと！」という責任感もあり、事前に自分なりに準備することで主体的に学習に向かう姿勢を育むことができる。また、どうすれば下級生が分かりやすいかを考えることで、相手意識をもった表現力を磨くことができる。下級生にとっては、教えてもらいたいところを事前に整理しておくことで、「自分事」として学習に取り組むことができる。

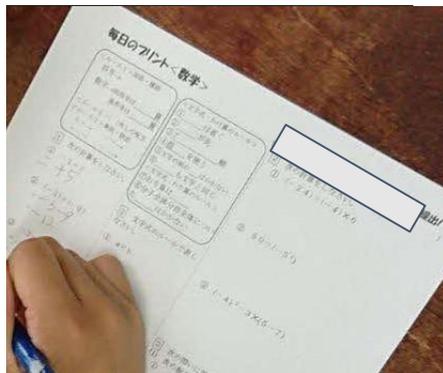
学校名（球磨村立球磨中学校）

～自ら学ぶ姿勢と基礎的・基本的事項の定着を目指して～

「2分前〇〇」

球磨中学校 学習態度5ヶ条

- 1 学習用具をそろえて、2分前には着席し「黙想⇒〇〇」
- 2 忘れ物はしない。（宿題・準備物）
- 3 授業の始めと終わりの挨拶をしっかりとしよう。
- 4 顔を上げて先生の話や友達の発表に集中しよう
- 5 積極的に発表や質問をしよう。（一日一挙手）



【ねらい・具体的な取組】

本校では、学習規律の定着に向けた共通実践として「学習態度5ヶ条」に取り組んでいる。その中の実践事項の1つとして、「2分前着席→黙想→〇〇」という項目があり、各教科の授業の始まりに、基礎的・基本的事項の定着を目指した取組を行っている。

数学の授業では、年間を通して計算問題を中心に作成した「毎日のプリント」に取り組み、数学の学習の基盤となる計算力を高めるとともに、授業が始まる前の集中力を養っている。他教科においても、授業の始まりの活動を明確にすることで、生徒が自ら学ぶ姿勢を作るとともに、基礎的・基本的事項の定着につなげることを目指している。

【期待される成果】

「2分前〇〇」を全職員で必ず授業に位置付けることで、生徒自身が自ら学ぶ姿勢をつくとともに、教職員自身の基礎的・基本的事項（身に付けさせたい力）の精選につながっている。

学校名（水上村立水上学園後期課程）

オンライン英会話



【ねらい】

- 諸外国の人（オンラインティーチャー）とオンラインでつながり、英語でコミュニケーションをとることで、英語の活用能力の向上を図る。

【具体的な取組】

- 前の時間にテキストを予習し、そのテキストに沿ってやりとりを行う。
- 一対一でオンラインティーチャーとのやりとりを行う。
- ヘッドセットを使用するので、周りの声や音を気にすることなく、自分のペースでやりとりができる。

【期待される成果】

- オンラインティーチャーとの一対一でのやりとりを行うことで個別最適な学びができる。
- 諸外国の人と話すことで、授業で身に付けた知識を活用できる実感を持つことができている。